【様式①】令和5年度　学校評価書（小・中・特別支援）

学校名　岐阜市立長森中学校

校長名　宮川　晴光

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・学校の教育目標の具現に向けて、カリキュラム・マネジメントを機能させるようにする。特に、指導部会や教科部会、学年会における評価・改善活動の充実を図る。 ・各教科において、生徒の資質・能力の育成につなげるロイロノートの活用のあり方を明らかにする。	A	・【教職員質問紙調査：教職員の指導に関する評価・改善活動の充実→肯定的回答率92%】学年会において、具体的な指導の手だてを共通理解したことで、見通しある指導につながった。また、PDCAサイクルにもとづく研究体制により、研究主題の具現につながり、生徒の資質・能力が育成できた。	・落ち着いて授業に臨む姿や仲間と関わりながら活発に話し合いをしている姿が非常に多く見られた。ただ、グループであまり話し合いに参加しない生徒もいたので、全員にとっていい活動になるとよい。 ・生徒や保護者アンケートを行い、その結果を教職員で分析しながら生徒が安心安全に生活できる学校を目指している。	・日常的、継続的に評価・改善活動を行う体制を今後、考えていきたい。また、そうした活動は若手教員にとっても、よい研修の場となると考える。 ・行事の内容や取り組み方について見直し、生徒が充実感をもてるようにしていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・学校運営協議会と支援推進委員会が連動しながら、地域と学校が一体となって生徒の資質・能力を育成できる活動を生み出す。 ・支援推進委員会の三部会を改編し、活動の整理を行うことで、より地域の方々から学ぶ体制をつくる。	B	・学校運営協議会では、校区の中学生が身に付けてほしい資質・能力や今後のコミュニティスクールのあり方について、多くの意見を交流することができた。 ・支援推進委員の部会を改編したことで、地域の方々が生徒の学びに対して支援する体制を整えることができた。	・地域の行事等において積極的にボランティアに参加していた。また、当日も主体的で明るく元気に行動していた。 ・今の子どもたちは社会的経験が少ないと感じるため、ちょっとしたことに挫折しやすい傾向があると感じるため、学校と地域が協力し、様々な体験活動ができる場を生み出していけるとよい。	・学校運営協議会と支援推進委員会がより連携しながら活動できる組織体制を整備する。 ・支援推進委員会における活動のさらなる充実を図っていく。 ・地域ボランティアにおける依頼や調整等を地域で担っていける仕組みづくりを検討する。
あたたかさと働きがいにあふれる学校づくり	・生徒と関わる時間や専門教科の教材研究を十分に行う時間を確保するために、業務内容のスリム化を図る。また、業務時間の短縮の工夫を図る。 ・管理職やミドルリーダーが積極的に教職員と対話する機会を設けるとともに、教職員に対して、温かい声かけを多く行っていく。	A	・日課や会議の進め方、日直業務等のスリム化を図り、生徒に関わる時間や教材研究を行う時間を生み出すことができた。 ・生徒に関わる問題等に対して、担任、学年主任、管理職が連携して、組織的に対応することで、よりよい解決につながった。また、担任教師が生徒に関する問題を一人で抱え込み、辛さを感じることの防止にもつながった。	・体や心の病で休む教職員が多いと聞くため、学校として教職員の負担軽減につながる工夫を継続して考えていくべきである。 ・部活動の今後のあり方についても注視していき、地域として支えていける部分について考えていく必要がある。	・働き方から働きがいへの改革をすすめるために、時間をかけるべきこととスリムにすることを明確に住み分け、取り組んでいく。また、短時間で中身のある校内研修を校内研修主事を中心に実施していく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・生徒の命を確実に守る危機管理マニュアルを作成し、全職員がその内容を理解し、有事において、適切な判断のもと指導できるための研修を実施する。 ・生命の尊厳の理解につなげるために、道徳やいじめを見逃さない日の充実に努める。	A	・【教職員質問紙調査：安全指導の徹底→肯定的回答率100%】ケガや熱中症、アレルギー対応及びケガや病気など生徒の生命を第一に考えた指導や対応を組織的に行うことができた。 ・いじめを見逃さない日では生徒会執行部の生徒が仲間への関わり方を考える機会を設けるなど、いじめの未然防止に向けて工夫した指導を行うことができた。	・問題行動やいじめ事案に対して、学校は未然防止の取組の充実や迅速な対応ができていると感じている。生徒と教職員の信頼関係構築をさらに期待したい。 ・不登校生徒が抱える不安や悩みに寄り添い、手厚い支援、指導が行われている。フリースペースの運営において、地域として支援できることがあれば行いたい。	・不審者侵入に関わる命を守る訓練について、教職員や生徒にとってもより有益な訓練となるよう工夫する。 ・フリースペースで過ごす生徒に対する学校としての支援のあり方をより明確化する必要がある。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・ICTの効果的な活用など工夫した授業を進め、個別最適な学びの実現を目指す。 ・環境の整備・維持や充実した教育課程の実施に向けて、適切な予算計画及び執行をするために、事務職員と教職員の連携を密にする。	A	・【教職員質問紙調査：ICTの積極的かつ工夫した活用による生徒の学びの深まり→肯定的回答率84%】追究や交流、習熟の場でデジタル教科書やロイロノートを有効活用できた。 ・【教職員質問紙調査：備品・消耗品の有効活用→肯定的回答率100%】生徒の学習や生活の充実につながる予算計画及び執行となるよう事務職員と連携できた。	・ほぼすべての授業でタブレット端末や大型モニターが使われていて、以前とは大きく授業が変わってきていると感じた。こうしたICTの活用がどこまで生徒の学力向上につながっているかは検証が必要である。	・教職員全員が授業におけてICT機器を積極的に活用できるよう、教科部会等で具体的な活用の場を確認する。 ・ICT機器の活用により生徒の学びはどこまで深まっているか検証を行う。

HPアドレス：　https://gifu-city.schoolcms.net/nagamori-j